

学校教育目標	「強く 正しく 共に生きる 下末吉の子」 ○自ら学び、自ら考え、問題解決する子どもを育てます。【知】 ○自分や人を大切に作る心の豊かな子どもを育てます。【徳】 ○生命を尊び、心身ともに健康な子どもを育てます。【体】 ○地域や人との豊かなかかわり合いを通して、共に生きる子どもを育てます。【公】 ○様々な社会の変化に、柔軟に対応できる子どもを育てます。【開】					
	創立 71 周年	学校長 江口 和良	副校長 坂本 直人	2 学期制	一般学級: 6	個別支援学級: 2
学校概要	児童生徒数: 166 人 主な関係校: 末吉中学校 駒岡小学校 末吉小学校 上末吉小学校					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <問題発見・解決能力> <情報活用能力>	末吉中学校 上末吉小学校 末吉小学校 駒岡小学校 下末吉小学校	学校・家庭・地域の中で育つ、夢と希望に向かって努力できる子ども ○児童、生徒指導の情報の共有化のための定期的な情報交換 ○「末吉中学校区スタンダード」の運用・検討 ○児童・生徒及び教職員の交流活動並びに地域との交流の活性化 ○義務教育9年間の学びの連続性を軸とした授業参観・授業公開

中期取組目標	「下小71周年 未来に繋ごう下小のバトン！」～見つめる→繋げる→広げる～ ○創立70周年を機に、小規模校ならではの本校のよさを見つめ直し、持続可能な学校づくりを進めます。 ○本校児童のよさを伸ばしつつ、「学力向上」や「中一ギャップ解消」などの課題解決に具体的に取り組みます。 ○コロナ禍で教育的価値を再確認できた地域との繋がりを教育活動に取り戻します。 ○「共有・参画・らしさを発揮」をベースに、働きがいのある職場づくりを進めます。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①読書・漢字(熟語)学習・視写に取り組み、理解力・表現力とともに語彙力の向上を目指す。②重点研では、昨年度に引き続きロイロノートを中心としたICT機器の活用に取り組み、学年ごとの系統表を作成していく。③算数を中心に教科分担を推進し、教科の専門性を生かした授業の実施や少人数・TTIによる指導の充実により、児童の学力向上を図る。
担当	重点研・チーム学年経営	
徳	豊かな心	①たてわり活動では、各学年のめあてや役割を明確にして、キャリアパスポートでの自己評価やあゆみ等での他者評価によって自尊感情を高められるようにする。②たてわり活動を学校の軸として、様々な活動で交流の機会を意図的に設け、感謝したり、されたりする経験ができるようにする。③全校たてわり活動以外にも、教科等で気軽に異学年のペア活動を行える環境を整える。④行事や総合的な学習の時間、各教科等と道徳の時間との関連を図り、豊かな人間性を育む。また、全学級の道徳授業公開を年1回以上実施する。
担当	特活・道徳	
体	健やかな体	①朝縄跳びでは短縄に加えて長縄を取り入れることや、新しいスタンダードに合わせた外遊び(ボール遊び・用具等)を充実させ、集団・個人の両方の面で体を動かす楽しみを体感させていく。②感染症対策では市のマニュアルの変更に合わせて、適宜対応していく。③子ども達を取り巻く環境の変化の中、健康づくりの課題について家庭と学校が共有したり、学校保健委員会の議題としたりしていく。④栄養士・食育部と連携し、年間を通して食育活動を行っていく。
担当	体育・保健	
公開	70周年記念	昨年度、70周年行事の中で培ってきた子ども・保護者・地域のつながりを意識した活動を、今年度も引き続き進めていく。①地域の盆踊り大会や運動会などで下小音頭を踊り継いでいく。②森永工場やあさひ屋などへの町探検を継続して行い、町についての理解を深める。また、昨年度できなかった一歩舎との交流も進める。③幼稚園・保育園や栽培ボランティアさんなど地域の人々との交流も継続していく。
担当	70周年PJ	
いじめへの対応		①いじめ防止基本方針を保護者への周知や子どもたちへのSOSの出し方指導を行い、いじめの未然防止や重大化防止に努める。②月1回以上定期的にかつ、いじめの疑いがある段階で直ちに、いじめ防止対策委員会を開いて連携体制を整え、複数職員で対応や経過確認を行って再発防止に努める。③年2回の児童理解・いじめ防止研修を実施して、全職員のいじめに対するアンテナを高めて日常に潜むいじめについて積極的に認知するとともに、年2回実施するYPアセスメントと児童アンケートを複数の職員で確認し、些細な変化を見逃さないようにする。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①低中高各ブロックにブロックリーダーを設け、ブロック学年研を通して教材研究や行事等の計画、児童指導に関する共通理解を図れるようにする。②児童の実態に応じて教科担任制を取り入れ、学級担任の担当教科時数を削減する。③メンター研では、校内研修に加え、中学校ブロックのメンターチームと連携し、ワークショップ型の研修を通して、教科指導や児童対応などについて幅広く学べるようにする。
担当	チーム学年経営・メンターチーム	
特別支援教育(多文化共生)		①ブロック研究会や特別支援委員会等で、特別支援が必要な児童について共有する機会を設け、早期発見・早期対応をできるようにする。②個別の指導計画・支援計画を、複数の職員で共有して連携を図ったり、指導や成長の経過をたどれる引継ぎ資料として活用したりできるものにする。③全学年対象とした特別支援教室(ステップアップルーム)の運営の確立を図る。④国際教室・日本語指導等、講師・担当者・担任と家庭で連携を図る。
担当	特別支援教育委員会・国際教室	
児童指導		①「スタンダード」が社会情勢や児童の実態に合うよう定期的に修正を行い、児童が規則の意義を理解して守ることができるようにする。②ブロック研究会や職員会議内で児童理解の時間を確保し、複数の職員で児童指導や支援を行う。③「Y-Pアセスメント」を活用し、多面的な児童理解を図って具体的な支援・指導を実践し、いじめや問題行動等の未然防止を図る。④登校が滞りがちの児童について、SC・SSW等も含めた複数の教職員で児童の状況のアセスメントや、登校に向けた目標や手立ての具体化を行い、連携して支援する。
担当	児童指導専任	
読書活動推進		①学校司書や保護者ボランティアによる読み聞かせや、朝の読書活動などを通して、児童の読書への興味関心を高める。②学校図書館から学級への貸し出しを定期的に行い、児童が様々な本に触れる機会を増やす。③学校司書と連携して、授業に関する図書資料を提示し、読書の幅を広げられるようにする。④ICT支援員と連携して、本の挿絵をスライドにして読み聞かせ等に利用し、本への興味関心を高められるようにする。
担当	学校図書	
a15		b10
担当		